

〔演題名〕

宮崎大学の卒後臨床研修医の出身背景と医学部入試制度との関連

Title: Relationship between native prefecture of clinical trainees and entrance exam system for faculty of medicine in University of Miyazaki

〔発表者・所属〕

小松弘幸^{1,2}、有村保次²、林 克裕¹、岡山昭彦²、池ノ上克³

1. 宮崎大学医学部附属病院 医学教育改革推進センター
2. 宮崎大学医学部 卒後臨床研修センター
3. 宮崎大学医学部長

〔抄録〕

【背景・目的】宮崎大学医学部では、多彩な人材の獲得を目的としたいわゆる「ユニーク入試制度」が 1990～1999 年度に導入された。その結果、一応の目的は達した一方で、本学医学部生に占める宮崎県出身者の割合が減少した。今回我々は、本学の卒後臨床研修に在籍する研修医の動向を、この入試制度との関連という視点から retrospective に検討した。

【方法】対象は、2004～2008 年度に本院プログラムで研修を開始し、2 年間の研修を修了した 147 名（うち男性 93 名）。対象者の出身背景を、宮崎県出身・宮崎大学医学部卒、宮崎県出身・他大学医学部卒、宮崎県外出身・宮崎大学医学部卒、宮崎県外出身・他大学医学部卒の 4 群に分類し、検討した。

【結果】全対象者の出身背景の割合は、30 名（20%）、32 名（22%）、74 名（51%）、11 名（7%）で、宮崎県外出身・宮崎大学医学部卒の割合が約半数を占めた。対象者の研修修了後の進路は、宮崎大学医学部附属病院 111 名（76%）、宮崎県内の病院 11 名（7%）、宮崎県外の病院 25 名（17%）で、県内定着率は 8 割を超えた。また、出身背景別にみた県内定着率は、30 29 名（97%）、32 30 名（94%）、74 53 名（72%）、11 10 名（91%）で、宮崎県外出身・宮崎大学医学部卒の群でも 7 割を超えた。対象者が宮崎大学医学部に入学した 1998～2002 年度では、毎年の入学生 100 名に占める宮崎県出身者数は平均 8.4 名と全体の 1 割以下であった。

【結語】宮崎大学の卒後臨床研修医に占める宮崎県出身者の割合は少なく、その一因として、ユニーク入試制度によってもたらされた本学医学部生に占める宮崎県内出身者数の減少が考えられる。しかし、宮崎県外出身者でも研修修了後定着率は維持されており、地方での医師定着には魅力ある研修環境作りも重要と考えられる。